

国際ロータリー会長
 ジョン ケニー
 地区ガバナー
 植木 康之
 三条北RC会長
 石川 勝行
 幹事
 早川 瀧雄
 SAA
 岡田 健



三条北ロータリークラブ週報

例会日 2009. 12. 15 累計 No.1111 当年 No.22

例会日: 火曜日 12:30 ~ 13:30
 例会場: 三条ロイヤルホテル TEL 34-8111 FAX 34-8114
 事務局: 三条市本町 3-5-25 三条ロイヤルホテル内
 TEL 0256-35-7160 FAX 0256-35-7488
 ホームページ: <http://www.sanjo-nrc.org>
 メールアドレス: north@sanjo-nrc.org

本日の出席: 70名中40名
 先々週の出席率:
 70名中49名 70.0%
 (前年同71.64%)

本日の行事: 卓話
 「つながる命」

先週のメイクアップ: (敬称略)

- 12月10日加茂RCへ
 米山忠俊
 11日フィリピンRC
 高橋彰雄
 13日地区諮問委員会
 中條耕二
 13日東山ガバナー外
 壮行会
 中條耕二、米山忠俊
 15日親睦旅行説明会
 石川勝行、早川瀧雄
 岡田大介、星野義男
 斎藤 正、青木省一
 佐藤義英、大野新吉
 丸山 勝

本日のゲスト:

骨髄バンク命のアサガオにいがた
 高野由美子様

本日のメニュー: 941 kcal

豚バラ肉昆布煮	122
御造里	114
鱈の味噌漬け焼	68
天麩羅	269
御飯	168
味噌汁・漬け物	67
小倉白玉	133



会長挨拶

石川 勝行会長



本日の卓話は骨髄バンクの高野さんです。いらっしやいませ。どうぞ、ごゆっくりお過ごし下さい。卓話を宜しくお願ひします。

雑誌を見ていたら、西暦 578 年設立された金剛組の記載がありました。仏教でいう金剛とは、はるかに硬く他に比べようもない硬さという意味があるそうです。金剛組の命名には渡来した匠達の命をかけた強い思いが込められていました。現在まで事業が継続できた理由は、柔軟な発想。その原点は、金剛般若経 (コンゴウハニヤキョウ) にあるとのこと。

その中の「筏の喩え」(イダの外え)。

釈迦は弟子に「旅人は川のほとりまで来たがあいにく橋が架かっていないとする。辺りには木切れやつる草が散らばっていた。旅人は木切れをつる草でつないで筏を作り、渡ることができた。旅人は、筏は有難いものだ。捨てるわけにはいかないと、筏を担いで旅を続けた。弟子たちよ、旅人は賢者かそれとも愚か者か。」弟子の一人が答えた。「不要になったものを担いで歩くのは愚か者です。」釈迦は「わが説法を筏の喩のごとしと、知る者(理解した者)は、私が説いた教えといえども捨てるべき。」(不変の真理等ありはしない。偉い人が言った事でも見直しが必要。)この雑誌は、昨今の経営環境はまるで断崖絶壁から転げ落ちるのかように激変している。経営者は乾いた谷底をいらなくなった筏を担いで旅をしていないか、急いで点検する必要がある、と述べていました。

考えてみると、釈迦、孔子、キリストであろうと偉人賢人の言葉はたくさん、ありますが、どれを取るかすべて自由、自己責任。先を見る能力、広い視野をもち深く人間社会を見つめる能力ではないでしょうか。

いろんな人が自由に意見を言い、酒を飲み、交流できる最高の場がロータリーではないでしょうか。20 数年続いている(金剛組の 1500 年とは言いませんが)我々のクラブを、さらに発展させましょう。こんな素晴らしい三条北ロータリークラブはないでしょう。

親睦委員会お客さま紹介



幹事報告

早川瀧雄幹事

- ・植木ガバナーより 感謝状送付の件
李東建R I 会長よりポリオ寄付が1,000ドル以上のクラブに対しての感謝状が届きました。
- ・植木ガバナー事務所、東山エレクト事務所より 年末年始休業のお知らせ
12月29日(火)～1月4日(月)
- ・骨髄バンク命のアサガオにいがたより 賛助会員ご入会のお願い
- ・新潟南ロータリークラブより 50周年記念式典出席の御礼

委員会報告

親睦活動：「ハワイ星座鑑賞ツアー」説明会を例会終了後行いますので、参加予定の方は勿論、未定の方もご参加下さい。

ニコニコBOX:15日現在累計478,000円

- 石川 勝行君 師走の真ん中の今日。骨髄バンクの高野さん宜しくお祝い申し上げます。
- 早川 瀧雄君 骨髄バンク命のアサガオにいがたの高野様、卓話宜しくお祈いします。
- 馬場直次郎君 この分ではどうやら12月24日はホワイトクリスマスになりそうです。サンタさんへ「お祈いです」子供達ばかりではなく私達にも「景気」という名のプレゼントを運んで来てください。お祈い申し上げます。この声届いたでしょうか？
- 笹原 壯玄君 12月半ば、忘年会も半ば、もう少しです。あと半分頑張らないと！
- 今井 克義君 週報の会員の声、佐藤君の文章、簡潔明瞭、読みやすくて三重丸。それなのにゴルフのスイング何であれ程複雑なのか？
- 湊岡 茂君 飲み続けて少々疲労気味。年末皆様お元気で。
- 星野 義男君 高野由美子様の卓話に感謝して!!
- 丸山 勝君 寒くなりましたね。BOXに協力。
- 石丸 孝行君 BOXに協力
- 落合 益夫君 //



ロータリー財団BOX

- 中條 耕二君 ポールハリスフェロー達成
- 加藤 實君 前に箱があったので
- 小林 繁男君 金子さんの左となりに座ったので。
- 岡田 大介君 金子さんと目があったので(^_^)
- 金子太郎君 中條様、ポールハリスフェロー達成ありがとうございます。

米山奨学BOX

- 佐藤 弘志君 高野さん卓話ご苦労さまです。
- 羽賀 一夫君 可愛い山崎さんの顔を見たので。
- 堀川 正幸君 山崎さんに協力。
- 阿部 勝子君 ご苦労様です。
- 青木 省一君 ノーコメント
- 山崎 勲君 //





皆さん、こんにちは。今日、1111回という素晴らしい日に呼んでいただきとても感謝いたしております。私は加茂市に住んでいます。タカノセットというニット加工の会社を田上町で経営

しています。

主人が経営しておりますが私は仕事をやりつつ「骨髄バンク命のアサガオにいがた」の活動をしております。

少しでも多くの方が、骨髄バンクに関心を持っていただけたらいいなあと思います。

今回私は骨髄提供というとても貴重な体験をさせていただきました。

つい先日、ちょうど二か月前です。

骨髄を待っている患者側の気持ちと、ドナーとして骨髄を提供した気持ちを少し話したいと思います。

平成16年の高校3年生18歳の時に、がんセンターで「急性リンパ性白血病」と診断を下され翌年の17年6月に再発を起こしてしまい10ヶ月の闘病でした。

健康な方の白血球の数は1万弱の所、15万というとても少ない数で、がん細胞が95%占められていると言われたときに本当に信じられず、「えっ！」っていう感じで、「何で敏行なの？私じゃなくてなんで敏行なの？」って本当に信じられませんでした。自分の子供は何事も無くスクスク元気に育って、病気とは縁が無い、自分とは関係の無い世界だと思っていました。

15万って言う数は必ず再発をするから骨髄移植までしましょうとその時いわれました。

その後検査をして、家族は誰も白血球の方が合いませんでした。皮肉な事に私と末娘がぴったり合ったんですが、「俺じゃなくて、どうしてお前なんだ…」とショックを受けていました…凄く残念でした。

それで骨髄バンクに患者登録をしてすぐに調べたら69人一致する人が見つかりました。

血液型は関係なくて、白血球の型HLAと言うんですが、そのHLAが合わない人も多くいる中で、本当に奇跡で、これで敏行は生きられるとホッとしたのを覚えています。

もし、血液型の違う提供者だったら、提供者の

方の血液型に代わります。

闘病中一番敏行を苦しめたのが、重度の口内炎でした。

皆さんも、一個でも口内炎ができると、しみてかなり痛い経験をした事があると思いますが敏行の場合、一個一個じゃなくて口の中ほとんど全部真っ白くなっていてえぐれていました。想像を絶する痛みだったと思います。一ヶ月以上何も食べられなくて、ウイダインゼリーだけで過ごしたことがありました。それも、痛い痛いとしみながら、一気に飲んでいました。

食べたいのに食べられない苛立ちは相当なものがあつたと思います。いつも「焼肉が食べて〜」って、言ってました。治ったらみんなで食べに行こうって元気付けていました。

この口内炎と同じ時期に、大量出血によるショック状態を起こし本当にびっくりしたことがありました。早朝に敏行からメールが来て出血が止まらないって言うからすぐに折り返し電話をしたら、小さな元気の無い声で、「口から出血して止まらない。」びっくりして、すぐに病院に飛んでいきました。鼻血も止まらなく両方の鼻にガーゼが詰まっていたので、どうしても口呼吸になって、口内炎を起こしている口の中が乾いて、パリンと切れたようです。

病室に入って敏行を見たときに涙が出そうになったことがあって、薬のせいで、意識がモウロウとしているのに起き上がっていて、体が傾いているのを必死に起こそうとしていて、片手で、ガーゼを口の中に入れて出血を押さえていて、もう片手では、携帯を握っていました。私はその携帯を敏行から取って、涙をこらえながら携帯についていた血を拭いていました。所々固まっていたのを見たら胸がつぶれる思いでした。

道中何度も「早く来て！」「マジ、きつい」「もう疲れた」とメールが来て携帯を持って、私が来るのを待っていたのかと思ったら、切なかったです。私がついてすぐに外来にかかったんですが、その時に敏行の様子が変になり、全然反応がなくて、大量出血によるショック状態でした。

血糖値が300になり常にインシュリンが点滴されていました。血圧が200を突破して倒れたりしたこともありました。記憶障害も起こして病気よりも記憶がないことがつらいと言っていました。全て薬による副作用です。抗がん剤は、がん細胞には有効ですが、良い臓器もす

べてダメージを受けてしまいます。繰り返す抗がん剤投与で、臓器が凄くダメージを受けているんな副作用との戦いでした。毎日毎日今日はどんな試練が来るんだろうと、毎日襲ってくる予期せぬこととの戦いでした。

移植をする2ヶ月くらいのあいだほとんど何も食べられない状態での移植だったんです。

寛解という、がん細胞が消滅していた時に出来れば一番良かったんですが、残念ながら寛解にはなっていませんでした。ベストの状態ではなかったんです。

そういう体力の落ちた状態なのに移植のために自分の骨髄をがん細胞も一緒に破壊しなくてはいけなくて、全身放射線照射、を6回通常頭はかけないんですが、がん細胞は全身をめぐるっているため、もしかして頭に潜んでいるかもしれないので最後の二回は頭も含め全身かけました。

その後、通常の5倍という量の大量抗がん剤投与で完全にがん細胞も一緒に骨髄は破壊され、自分では血液が作られなくなりました。そこに新しいドナーの骨髄を点滴しました。

前日に先生がドナーさんが入院している近畿地方の病院まで、骨髄を頂に行ったのですが、無事に帰ってくるまで心配で心配で、ドナーさんに何かあったらどうしよう。先生に何かあったらどうしよう、もし何かあったら敏行は死んでしまうって本当に心配でした。無事に帰ってきた時は本当に嬉しくて、これで敏行は助かる！って思いました。頂いた骨髄の処置をして不純物などをとったら1リットルあった骨髄が少し減ってしまったんですが、一滴一滴敏行の体に入っていました。ドナーさんに本当に感謝の気持ちで一杯で、ずっと手を合わせて感謝をしていました。

亡くなる前日、主治医から再発と言われて、お父さんが先生に「3月からの入院で、4ヶ月家に帰っていないから、つれて帰っていいですか？」って聞いたら先生もちょっと考えて「じゃ外出してきますか。」って言ってくださいました。普通なら、骨髄移植をして41日目で、熱も39度以上あって鼻血も止まらない状態で、絶対ダメなのに先生も本人の持っている免疫力が上がるのを期待したのかも知れません。そのとき敏行に「今日家に帰って来てもいいって！」って言ったら「え～なんで～なんで帰っていいん？」「難儀かったらいいんだよ」って言ったら「帰る帰る！！」ってとっても嬉しそうでした。

車の中でメールをして友達を誘っていました。本当に嬉しそうでした。

家に着いてすぐに友達が5人集まってくれて、

一緒にご飯を食べたんですが、敏行は、スパゲティ1・2本・シチュー一口、ピザ一口しか食べられませんでした。

この日は、消灯までに病院に戻って、点滴をつなげていつもの病院生活に戻りました。

次の日の朝9時頃からちょっと様子が違っていて、急変を起こしました。

最期の時、呼吸が変になってきて、あわてて抱きかかえたんです。その抱えられている腕の中で、「俺、マジダメかもしんね～」って言ったんです。最後の言葉を本のタイトルにしたんですが、その言葉を聞いて、本当にビックリして、「敏行家に帰るんだよ！皆が待っているんだよ！」って必死に叫んでました。

自分は死んでしまうかも知れない恐怖と、その言葉を言わせるってことは身体がどんなだったのか…皆さん想像してみてください。「俺、マジダメかもしんね～」私は、お母さんもういいよね。こんなに頑張ったけどいいよねって言っているように思いました。

それで、病気は人間を変えてしまうってすごく思いました。体も心も良いほうにも悪いほうにも変えてしまいます。敏行は、とつても筋肉質でガッチリしていたんですが、全く筋肉も落ちて、顔は薬の影響でまん丸で、がん細胞が眼球を押しつけて、切れ長だった目が、飛び出しているようになってしまい、手足は細く、おなかにはプヨプで体重も7、8キロ減ってしまいました。外見は本当に別人のように変わってしまいました。

でも今時の高校生で、親を煙たがりろくに口も聞かなかったんですが、心は本当に素直になり、相手の気持ちを感じとって、とても優しい子になっていました。本当に病気はここまで人間を変えてしまうんだなって思いました。

当たり前の生活がどんなに幸せなことなのか、敏行を失ってから気づきました。

敏行が居なくなると、気持ちに大穴が開いたというか親として、お母さんとしての、楽しみをごっそり持っていかれたような気持ちでした。18歳まで元気に育って、これからがどんな風に成長するのか、

どんな人生を送るのか、

どんな看護師になっていたのか、

どんな彼女を連れてくるのか、

どんなお父さんになっていたのか。

色々考えると本当に残念で仕方ありません。

■ 敏行が亡くなってすぐにドナー登録して、つい先日登録して3年くらいで適合通知が来ました。

いつもバンクからくる封筒の色と違うなって思いながら、封を開けたんですね。そしたら大

事なお知らせです！と書いてあって、なんだろう…って思いながら見たら、ドナー適合者に選ばれました。という通知でした。本当にびっくりしました。とっても嬉しかったです。やっと来た！って言う気持ちと、良かったあ〜やっと恩返しができるっていう安心感みたいな気持ちでした。

患者さんの一日でも早くコーディネートを終了して提供してほしいという気持ちが凄くよくわかるから、コーディネーターさんに早急にコーディネートを進めてくださいとお願いをしたんですが、なんかいろいろと、病院との絡みがあって、うまく進まないんだなって思いました。長い方は半年以上コーディネートを続けています。私は、病院との絡みもうまく調整できて、2か月ちょっとで提供することができました。コーディネーターさんもかなり早いほうですよって言ってました。

私は、コーディネートを進めているときに、女性の方はわかると思うんですが、妊娠した時の感覚でした。自分ひとりの体じゃない。私が何かあったら患者さんの命にかかわる。薬も飲めないから風邪をひいちゃダメ。すごく緊張して毎日過ごした様に思います。ドナーさんは本当に健康じゃないとできないんだなって思いました。私は健康ですよって太鼓判を押されたようです。

患者さんの主治医が手術室に立ち会って、採ったらすぐに待ち帰るんですが、先生はとっても緊張すんだそうです。患者さんの命を運んでいるわけだから、しっかり抱きかかえて、トイレも行かず、大事に抱えているそうです。たまにちゃんと入っているか確認をするほど、緊張するそうです。

私はたちは病気をずっと見てきたから、何のためらいもなく、当たり前のように登録して、恩返しをしたいと思っていますが、全く病とは無縁で、提供する思いのある方は本当にすごいことだと思います。真の優しさ思いやり、大きな勇気だと思います。

日が経つにつれてすごいことをしたんだなって思います。医者でもない一般の主婦が、人の命を救うことができる。生きるためのほんの少しのお手伝いができる。本当に感動です。提供した時は、達成感と充実感でいっぱいでした。命というものを前にすると悩みが本当にちっぽけに思えてきます。気持ちが大きくなる気がします。

ドナーさんがいなくて毎日毎日、今日の登録者の中にいるか、ずっと待っている患者さんがいます。骨髄移植ができれば、助かるかも知れない

いのに、移植を出来ずに亡くなる。本人はもちろん、何もしてあげることのできない家族は地獄の苦しみだと思います。

皆さんが他人事ではないって思ってくださいれば、もっともっと助けることのできる命があるんです。

移植ができれば助かるかも知れない命。

救える命救ってあげたいです。

骨髄採取が終わって、調整医師の先生から、「無事患者さんに移植されましたよ。患者さん涙を流してドナーさんに感謝していたそうです。」って話を聞きました。

こちらこそ、ほんの少し生きるためのお手伝いをすることが出来て感謝の気持ちでいっぱいです。

話を聞いた時は、本当によかった。私の思いと、敏行の思いがいっぱい詰まった骨髄です。

絶対元気になると信じています。

毎年、6,000人も血液疾患になってしまう患者さんがいます。それで、2,000人が、骨髄提供を待っています。ドナー登録が33万人を超えました。30万人を超えると、9割の患者さんにドナーさんが見つかると言われていますが、提供をしてもらえるのが6割の患者さんです。

4割の方が、ドナーさんが見つかって移植にこぎつけていません。

ドナーさんは3泊4日の入院が必要なんです。会社を休めない。家族が反対、薬を飲んで…そんなことがおもな理由です。

献血並行ドナー登録会でも少ないと2・3人多くても十数人です。

みなさんの企業でもこういった説明会ができたなら嬉しく思います。

私は、全ての患者さんに生きる希望を持ってもらいたい。助かることのできる命を助けてあげたい。そんな思いで、骨髄バンクの大切さを訴えていきたいと思っています。

登録ができる年齢は18歳から54歳までです。どうか皆さんもご協力をよろしく願います。



山上茂夫

12月8日を迎えて感無量である。時代は昭和16年、何も知らない私達少年が軍国教育を受け、日本が戦争に突入した日である。其の結果、敗戦は国民に数々の苦勞と犠牲をもたらした。その上に成り立った高度成長経済もまたしても今や風前の灯である。政権交代から制度改革は遅々として進まず先も見えず五里霧中である。ドルの下落による円高も日本経済のデフレスパイラルに引きずり込みそうだ。何はともあれ大国が戦力を背景に更に宇宙まで開発競争と権力拡大を狙っている。

それ等根源は全て戦争に繋がっていて止まるところを知らない。環境破壊がこれ程叫ばれていても気付かない。1853年（嘉永6年）ペリーが浦賀に来て開港を迫り幕府が対応に苦慮していた1863年（文久3年）までの10年間で日本は薩長連合の台頭から尊皇攘夷へと進み幕府崩壊、明治政府誕生となった。其の後は軍備の近代化へ更に戦争へと突入し大きな禍根を残している。

歴史的には今それに近い社会情勢なのが心配だ。特に文久3年5月10日馬関攘夷戦でアメリカのベンブロック号を砲撃した長州軍が敗れ更に軍備の強化に取り組んだ歴史とついついダブらせて見るのは偏見だろうか？長州で終戦まで過ごした私としてはあの戦後の苦しみをこれからの若い世代に体験して貰いたくないのだ。多数の勝手や少数意見の切り捨ては最終的には全体の不幸に繋がりがかねない。

歴史に学ぶことを知るべきである。

註）馬関攘夷戦1863年5月10日長州軍は下関亀山砲台から800mと狭い関門海峡を航行中のアメリカ軍艦ベンブロックを襲撃したが、丸い鉄の弾が下へ転がり落ちたりのお粗末さで米英軍に破れて武器の相違を痛感した。その年の8月に藩の命で高杉晋作が下関に来て下級武士や町民を交えた騎兵隊を組織した。

2009. 12. 8



1月のお祝い

誕生日

結婚記念日

会 員		ご夫人	
本間 重満	1	中條 敦子	2
丸山 達夫	2	下村 宏子	3
横田加代子	2	加藤満寿子	9
大橋 政雄	3		
渋谷 義徳	5		
浅間 一洋	5		
菊池 弘之	6		
坂本 勝司	7		
堀田 正弘	21		
外山 裕一	31		

西山 斉・陽子 1

